

# 中 2

## 期間

【前半】 12/25 (水) ~12/28 (土) 5 教科・4 日間  
 【後半】 1/4 (土) ~1/7 (火) 5 教科 3 日間+学力テスト (5 科)  
 【冬期休塾期間】 12/29 (日) ~1/3 (金)  
 ※12/29 (日)・1/3 (金) はウインタースクールを開講します。(希望者対象・有料)

身につく学力 《記号は 6 つの力》	
<b>国語</b> 現代の諸問題を考える ~佐々木俊尚「レイヤー化する世界」~	
「どうして戦争はなくなるのか」「どうしてアフリカは貧しいのか」「どうして学校で国語を学ぶのか」そして、「どうして私たちは豊かさを求めて働くのか」。それらすべての答えは、〈民主主義〉と〈国民国家〉というヨーロッパの二つの発明にあるのです。現代のすべての問題の根っこにあるこの二つの概念は、その重要さから、高校入試国語においても最頻出のテーマとして出題されます。世界の仕組みの正体を解き明かす楽しみと同時に、一足先に受験の重要知識を手に入れましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●論理の展開を把握する力</li> <li>●文章の内容を理解し、簡潔に説明できる力</li> <li>●世界史の大きな流れについての理解</li> </ul> 《A・B・C・D・E・F》
<b>数学</b> 確率が超面白い！	
もしハマっているゲームで、「激レアアイテム当選率 10%のカード A 二枚で激レアアイテム当選率 20%のカード B 一枚と交換できる」と言われたらどうしますか？ このような時に論理的にどちらがお得かを考えるのが確率論です。まさに実生活に直結する内容であり、確率を考えたときの基礎となる「場合の数」という項目が、図形・関数・整数問題と、あらゆる場面において役に立ちます。つまり、この単元を制する者は、数学さらには受験をも制するとも言えるのです。一緒に楽しみながら取り組みましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●整理して数える力</li> <li>●効率の良さを意識する習慣</li> <li>●感覚だけに頼らない論理的な確率計算技術</li> </ul> 《A・B・C・E》

## 授業時間数

国語・数学・英語 【前後半】 各教科 40 分×7 日間  
 理科・社会 【前後半】 40 分・理科と社会を交互に開講×7 日間

身につく学力	
<b>英語</b> GS 理論	
GS 理論とは、英語の文構造を 3 つの視点（グループ・品詞・文型）で解釈するクセジュオリジナル英文解釈法です。この GS 理論を身につけることで、これまで一種類ずつ文法を学んだ時には見えなかった事項が沢山発見でき、入試の要となる英作文問題や長文の精読力が高まります。また、GS 理論と関連させて主要文法を学ぶことにより、それぞれの文法の特徴をより鮮明に理解することができるようになります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係代名詞・不定詞・分詞</li> <li>●接続詞・動名詞の基礎知識及びその関連性</li> <li>●品詞・文型・句と節の考え方</li> </ul> 《A・B・C》
<b>理科</b> 入試問題に挑戦	
理科は、中 1 中 2 で習った内容が、高校入試の 7 割～8 割を占めています。昨今の高校入試の問題は難しく、従来のような一問一答式の暗記重視の勉強をしていたのでは太刀打ちできません。講習では、入試問題に挑戦し、まず、現時点での知識がどこまで通用するのか見てみます。中 1 中 2 で学ぶ内容の総復習を行いながら、入試で必要になる「本質を見抜く力」を養います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中 1 中 2 理科の総復習</li> <li>●身の回りの物理現象・物質</li> <li>●植物の生活と種類</li> <li>●大地の変化</li> <li>●化学変化と原子・分子</li> <li>●電流とその利用</li> <li>●動物の生活と種類</li> </ul> 《A・B・C・D・E》
<b>社会</b> 第一次世界大戦と科学史	
今から約 1 0 0 年前に人類の歴史上に類を見ない被害をもたらした戦争が起こりました。それが第一次世界大戦です。この戦争が大きな犠牲を生んだ背景には、科学技術の発展があります。一方で、戦争で生まれた科学技術は、現在の私たちの生活に欠かせないものになっているという側面もあります。また、現代社会にある国際問題はこの時期に端を発するものが多くあります。文系、理系問わず幅広く教養をつけ、表面的でない本物の知識を身につけていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●科学技術発展の歴史</li> <li>●20 世紀初頭の世界の様子</li> </ul> 《A・B・C》